

がくしゅう ぶんぽう  
学習する文法うけみ  
受身② passive sentence1 <sup>ひと</sup>人は+<sup>からだ</sup>人の<sup>ぶぶん</sup>体の<sup>も</sup>部分/<sup>もの</sup>持ち物を+<sup>た どうし</sup>他動詞

<sup>あに</sup>兄は、<sup>わたし</sup>私の<sup>あたま</sup>頭をたたきました」のような文を、受身にするときも、  
「私」はどうか、「私」を<sup>ちゅうしん</sup>中心に<sup>かんが</sup>考えて<sup>あらわ</sup>表します。

れい  
例

兄は、私の頭をたたきました。



私は、兄に頭をたたかれました。



# 学習する文法

## 2 じ どう し 自動詞の受身の用法 ようほう

なに 何かが お 起こって、その けっか 結果、人が こま 困ったとき、わる 悪いことになったとき、  
その人を中心に考えて、受身の文で表します。

例

あめ 雨が ふ 降りました。  
私は困りました。



私は、雨に降られました。



## 学習する文法

### 3 意味が2つある文の見わけ方

「田中さんは、私の手紙を読みました」のような文は、  
2つの場合が考えられます。違いに気をつけてください。  
「私」を中心にして書くと、よくわかります。

(受身) 私は、田中さんに手紙を**読まれました**。(怒りました)

(親切) 私は、田中さんに手紙を**読んでもらいました**。

(お礼をいいました)